

令和元年8月30日

ふじみ野市議会
議長 小林 憲人 様

ふじみ野市議会青藍会
代表 小高 時男

青藍会視察研修報告書

ふじみ野市議会青藍会所属5名は、令和元年7月9日・10日・11日に鳥取県境港市において議会改革（9日）、鳥取県出雲市においてコミュニティ・スクール、公共施設の利活用（10日）、鳥取県米子市においてスマートライフ・プロジェクト（11日）をテーマとする視察研修会を実施したので下記のとおり報告します。

記

1 出席議員

小高 時男 山田 敏夫 小林 憲人 原田雄一 加藤恵一

2 視察研修先

- (1) 境港市役所 鳥取県境港市上道町 3000
令和元年7月9日(火)13:15～14:45
- (2) 出雲市役所 鳥取県出雲市今市町 70
令和元年7月10日(水)10:00～11:30
- (3) 大社コミュニティセンター 鳥取県出雲市大社町杵築南 1051-1
令和元年7月10日(水)13:00～14:00
- (4) 米子市役所 鳥取県米子市加茂町1丁目1
令和元年7月11日(木)10:00～11:30

3 視察の目的

(1) 議会改革について

昨年度、本市議会では議会基本条例が制定されました。当該条例において条例の定期検証が定められており、議会基本条例検証見直し検討会議を立ち上げ検証を進めているところです。議会基本条例の検証について先進的な取組を行っている境港市の事例を参考にすべく視察を実施しました。

(2) コミュニティ・スクールについて

一昨年度、学校を核として保護者、その地域に住む人々が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校」として、地域と一体となり学校づくりを進めていけるように、モデル校2校において先行して地域協働学校の取組がスタート

しました。本年度は、小学校全校中学校 1 校にその取組を拡大して事業を行っているところです。コミュニティ・スクールについて、出雲市の事例を参考にすべく視察を実施しました。

(3) 大社コミュニティセンター

中学校跡地を地域交流拠点として利活用しています、既存の体育館やテニスコートは、そのまま活用している。本市においても文化施設の建て替えや大規模改修に取り組んでいることから先進事例として出雲市の大社コミュニティセンターを現地視察しました。

(4) スマートライフ・プロジェクトについて

近年の地球温暖化などの影響から本市においても自然災害の猛威にさらされる状況に直面しています。災害時の電力供給などの取組みを参考にするとともに、本市においても力を入れている健康づくりなど米子市の取組事例を参考にすべく視察を実施しました。

4 視察研修の内容

< 1 > 境港市の議会改革について

(1) 議会基本条例の効果について

平成 26 年 4 月 1 日に施行された「境港市議会基本条例」に基づき、開かれた議会を目指して、議会改革推進特別委員会を中心に様々な議会改革に取り組んでいます。

- ・平成 26 年市民・団体との懇談会・政治倫理条例の制定
- ・平成 27 年一般質問での一問一答制導入
- ・平成 28 年境港市議会 facebook を開設、議会だよりの再刊
- ・平成 29 年政務活動費の増額及び収支報告書・領収書の公開
- ・平成 30 年広報部会の設置・予算委員会の常任委員会化・代表質問時間・質問方式の変更・議会だよりをスマートフォンアプリ「マチイロ」で配信、市民アンケートを実施

(2) 条例の検証について

ア 平成 26 年 4 月 1 日「境港市議会基本条例」を施行、条例で一般選挙を経た 2 年後を目処に検証を行うと定めたことから規定に沿って条例で定めた理念や具体的課題に対してどこまで達成出来たか、残された課題は何かを明らかにするために基本条例の基本理念に沿い次の 5 つの項目に分類し検証作業を行いました。

- ①情報公開、説明責任に関して
- ②市民意見の把握、市民参加機会の拡大
- ③市長等との緊張関係の保持
- ④議会、議員の内部改革
- ⑤その他の規定

イ 全体評価

施行後、規定に基づき項目分けをし、検証を行ったが、やってみて気づく

問題もあり、努力する部分、道半ばの部分も見つかり評価とすると 60 点となりました。

(3) 市民と議会の懇談会について

ア 市民と議会の懇談会の開催状況

- ・平成 24 年～平成 30 年度市民と議会との懇談会を実施

イ 市民と議会とのテーマ別懇談会の開催状況

- ・平成 25 年自治会役員と市議会の懇談会
- ・PTA 役員と市議会の懇談会
- ・平成 26 年民生児童委員協議会役員と市議会の懇談会
- ・平成 27 年一般社団法人境港青年会議所と市議会の懇談会
- ・平成 28 年高校生と市議会の懇談会
- ・平成 29 年境港市女性連絡協議会と市議会の懇談会
- ・若手農業者と市議会の懇談会
- ・平成 30 年開催なし
- ・令和元年市民アンケートに対する講評及び島大生との意見交換会
- ・境港市障がい児育成会と市議会の懇談会

(4) 境港市議会改革の所感

市民にいかに分かりやすく伝えるか、待ちの姿勢ではなく、議員自らがまちの意見を色々な角度から捉えるために積極的に動いてるところがとても参考になりました。本市においても議会改革は、始まったところです。境港市議会の取組を生かして参りたいです。

< 2 > 出雲市コミュニティ・スクールについて

(1) コミュニティ・スクールの取組

ア 背景

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置する学校を指します。学校運営に対する支援、協力をする組織として出雲市では、平成 18 年度より、「地域学校運営理事会制度」を導入しました。

イ 取組の内容

地域学校運営理事会において、予算を含めた学校の運営や小中一貫教育や学校が取り組む学力向上対策や学校教育に対する人的支援、家庭教育支援について協議し、全中学校区に地域学校運営ブロック協議会を導入し地域、家庭、学校の教育理念の共有や発達段階に即した一貫教育の推進を行っていました。

ウ 主な取組（実際行われた活動）

- ・登下校時の安全見守り活動・地域クリーン活動
- ・地域行事の参加の呼びかけ・ふるさと学習の支援

- ・ 自学支援・家庭教育の支援・教科学習の支援
- ・ 広報活動・ノーメディアデイの設定・研修会の実施
- ・ 人材バンクの整備・教職員との懇談会・幼保小中との連携
- ・ あいさつ運動

(2) 取組の成果

学校間の交流促進や各学校や理事会の情報発信の向上、コミュニティセンターと学校との連携、地域の人々の学校に対する関心が高まり、学校行事に参加する地域の方々の増加、学校ごとの地域の特色を生かした個性溢れる取組が行われたり、登下校中の安心・安全が確保されたりするなど、成果があがったとのことです。

(3) 出雲市コミュニティ・スクールについての所感

学校・家庭・地域が連携して教育に取り組むことにより連携、協働の輪の中でそれぞれが役割と責任を自覚し、主体的・自主的に子どもたちの学びに関わり、支えていく中で子ども達が地域の大人達とともに学び合い成長を遂げていく好循環の仕組みがとても参考になりました。ノーメディアデイの設定など本市においても参考になる取組も学ばせて頂きました。本市においても出雲市のようなコミュニティ・スクールになっていけるように支援していきます。

< 3 > 出雲市大社コミュニティセンターについて

(1) 大社中学校跡地を利活用して校舎内は、そのまま教室を活かしながらサークル活動や文化活動に利用している。また、既存にあったテニスコートや体育館はそのまま活用しスポーツ拠点として活用している。

(2) 出雲市大社コミュニティセンターの所感

本市において文化施設整備に着手している中において既存の施設を活かしつつ新たな施設へと活用する取組み事例は大いに参考になりました。旧埼玉県立福岡高等学校は、校舎を壊し運動公園として生まれ変わりました。今後、少子高齢化などにより児童・生徒数も減少していく状況下において参考になる事例でした。

< 4 > 米子市スマートライフ・プロジェクトについて

(1) よなごスマートライフ・プロジェクト推進事業

ア 事業目的

住民サービスに関する実証プロジェクトを実施することで自治体とケーブルテレビ局、市民が、平時・災害時に ICT を活用して連携し、放送・通信・エネルギーの融合による新たな生活価値を創出すること

イ 取組み内容

(平時)

- ・ライフスタイルに応じた節電支援とエネルギーの地産地消
- ・個人と専門機関が連携した健康管理
- ・個人の健康に応じた環境測定情報の提供
(災害時)
- ・テレビによる情報弱者への個別災害情報提供
- ・停電時の避難所・EV への電力供給
- ・カーシェア EV による要援護者の避難支援

ウ 実証プロジェクト

①エネルギー分野

- ・HEMS と連動した蓄電池放電システムの運用実証
- ・電力センサーを検定済スマートメーターに更新

②健康づくり分野

- ・市内 60 世帯に体組成計・血圧計・活動量計・タブレット端末を設置

③防災・減災分野

- ・停電時を想定し、定置型蓄電池を自立運転し市役所災害対策本部や避難所への電力供給
- ・TV テロップターを活用し災害情報の伝達

エ 実証成果を活かしての今後の取組

①エネルギー分野

- ・地域エネルギー事業として商用化
- ・米子市役所の蓄電池では、節電サービスを開始

②健康づくり分野

- ・健康センサーの自動登録や普及に向けた課題解決に向けての取組

③防災・減災分野

- ・公共情報コモンズとの連携により、ケーブルテレビ、ホームページ、アプリなどで情報提供サービスを開始

(2) よなごスマートライフ・プロジェクトについての所感

地元の産官学と県外企業の連携により、実証事業を実施し、そこで得られたデータなどを基にし住民サービスに繋げていく取組はとても参考になりました。本市においても健康づくりにおける ICT 機器の活用やケーブルテレビを活用しての災害情報伝達など取組を進めているところですが更なる住民サービス向上に向けて地元の産官学と連携し取組を進めていきます。